

阿蘇市の復興を祈って

内牧商店街で阿蘇市民復興まつり開催

熊本地震からの早期復興を願い8月19日、内牧商店街周辺で阿蘇市民復興まつりが開かれました。今年で2回目となるこの祭りは震災以前に行われていた大阿蘇火の山まつりに代わり開催されているもので、地元の関係団体が出店する延長600㍎の露店や子どもたちが楽しめる数多くのイベントなど、以前の祭りに比べ、より地域色の強まった市民の祭りとなりました。

内牧の中心部で行われたプロレスでは、プロレスラーが子どもたちに筋トレやロープワークなどを指導。プロレスラーと相撲を取る一面も見られ、会場が盛り上がりました。

祭りの最後は2000発の花火で締めくくられ、大勢の市民で賑わいました。



阿蘇市内の人達が出店する露店の通り
浴衣姿の人や家族連れなどで賑いました



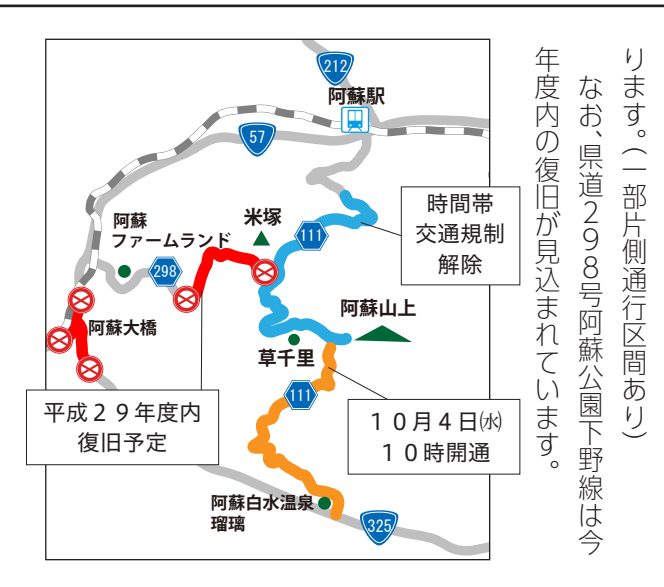
定番の金魚すくい
ほかの露店も市民による出店です



移動動物園では子どもたちが怖がりながら餌やり体験



見合って見合って！プロレスラーとガチンコ勝負



阿蘇市と南阿蘇村を結ぶ県道111号阿蘇吉田線（阿蘇パノラマライン）は、阿蘇市～阿蘇山上までのルートのみ通行可能でしたが、10月4日の午前10時から阿蘇山上～南阿蘇村で通行が可能となります。これに合わせて、午前7時～午後7時までの時間帯通行規制も解除され阿蘇市～南阿蘇村の終日通行が可能となります。（一部片側通行区間あり）

なお、県道298号阿蘇公園下野線は今年度内の復旧が見込まれています。

10月4日(水)開通

県道111号阿蘇吉田線
（阿蘇パノラマライン）
南阿蘇側登山道が

女性消防隊が奮闘

第5回熊本県女性消防操法大会

熊本県と熊本県消防協会が主催する第5回熊本県女性消防操法大会が8月20日、人吉市で開催され阿蘇市消防団女性消防隊が日頃の練習の成果を披露しました。大会は、県内の自治体から12チームが参加。阿蘇市の女性消防隊は前回大会に引き続き、3回目の出場となります。

女性消防隊の今村加奈子隊長（蔵原）は「入賞は逃したが、精一杯力を出し切りやり遂げたという気持ち。消防署員や消防団の方々に練習に協力して頂き、大変感謝しています。」と感想を述べました。

女性消防隊は現在9人で活動しており、随時新入団員を募集しています。

わだい



放水の様子。見事な連携で標的を落した

わだい



マック鈴木氏（中央）と一の宮マリンス

野球少年たちを応援

マック鈴木氏が大阿蘇旗学童軟式野球大会を訪問

一の宮マリンス少年野球クラブ主催の第19回大阿蘇旗学童軟式野球大会が開かれ、最終日の8月21日、元メジャーリーガーのマック鈴木氏が応援に訪れテントやボール、義援金を贈呈しました。

鈴木氏は、阪神淡路大震災後、被災した自身の出身地である神戸を元気にするために少年野球大会「マック杯」を創設。協賛金の一部を被災地へ寄付する活動を開始し、今回、被害の大きかった地域の少年野球大会を支援するため阿蘇市に駆け付けました。鈴木氏からは、「昨年は地震の影響で大会が開かれなかったと聞いている。これからは一日でも多くプレーしてほしい」と挨拶があり、一の宮マリンス野球クラブの友田愛海主将が代表してお礼を述べました。

プールの中で成長した金魚。復興のシンボルに！

阿蘇西小学校プールに避難した金魚を救出

阿蘇西小学校の校舎建替えによるプール解体に伴い、震災でプールに避難していた金魚を8月25日に学校職員ら9人で救出しました。

熊本地震の際、阿蘇西小学校の水槽が割れましたが2匹の金魚が生きているのが、発見されました。地震直後で断水していたため、学校職員はこの2匹をプールに放流したところ、今年6月にプールの中で元気に泳いでいるのを発見しました。発災当時、約10匹だった金魚は約30匹にまで成長。阿蘇西小学校の井上校長は「厳しい環境でも生き抜く逞しさを子どもたちにも是非感じて欲しい。これからのこの2匹の金魚を復興のシンボルとして子どもたちと大切に育てていきたい。」と話しました。

わだい



救出された金魚。今は阿蘇西小学校で元気に泳いでいる

わだい



バレーを通じ交通安全の意識向上

阿蘇地区交通安全ミニバレーボール大会

「地域・家庭から交通安全を始めよう」の趣旨のもと、主婦層を中心に交通安全の意識を高めるため8月27日、阿蘇地区交通安全ミニバレーボール大会が開かれました。

阿蘇地区交通安全協会は、阿蘇市と産山村の13支部で構成されており、今大会は7チーム70名が参加しました。競技開始前にクイズで交通安全の知識を深めた後、ミニバレーボールが行われ、激戦を勝ち抜いた宮地支部が優勝を飾りました。

また、交通安全標語の表彰も併せて行われ、「あわてない！急がない！危険信号待っている。」(山田支部 佐伯きくみ氏作)が会長賞に選ばれました。

人権意識の向上を目指して

阿蘇ヒューマン21文化祭開催

わだい



阿蘇ヒューマン21文化祭が8月26日に、地域住民など約350名が参加し、旧役大原小体育館で盛大に開催されました。

阿蘇市コミュニティセンターでは、「つながりよう心のネットワーク」を合言葉に、地域の交流の場として様々な交流促進講座を開講しています。

この催しは、それぞれの講座の発表の場として開かれているもので、日本舞踊やカラオケなどのステージイベントのほか、人権意識の向上を目的とした人権啓発パネルや習字等の展示も行われました。

今年も地元保育園や小中学校の発表も行われ、地域交流のイベントとして賑わいました。

阿蘇青少年交流の家にくまモン出現

阿蘇青少年交流の家が施設全面再開をPR



施設の全面再開に併せて作成されたくまモンアート

熊本地震の被害を受け、昨年11月から一部の施設のみで運営していた国立阿蘇青少年交流の家が、改修工事を終え7月22日、グラウンドなどを含めた全施設の運営を再開。これに併せて巨大な「くまモンアート」を作成しました。

同施設は、これまで年間約14万人の利用がありました。が、昨年度は熊本地震や中岳噴火の影響で利用者が約3万人まで減少し、本年度も約8万人の利用見込みに止まっています。今回、施設の全面復旧と併せて利用者増加策の一環として、職員が草原を刈り込み縦18m、横24mの「くまモンアート」を作成。多くの人が訪れるよう願いが込められました。

「くまモンアート」は事務所にひと声かければ見学することができます。

土曜授業で地域伝統文化に触れる

内牧小学校が地域体験活動を実施

土曜授業の一環として内牧小学校で9月2日、『地域体験活動』が内牧公民館分館と共催で行われました。

今年度は、「地域の人、自然、もの」とふれあおうをテーマに、川遊び、かかしづくり、水鉄砲づくり、生物調査、消火活動体験など、それぞれの地区で特色ある体験活動が実施されました。

内牧一区では、区役員、区長寿会など地域の人たちと保護者や子どもたち約70名が参加し、稲刈りを体験。カマの使い方を教わりながら黄金色に実った稲を刈っていききました。収穫後は、公民館で新米のおにぎりを食べて地域の人たちと交流を深めました。

わだい



カマを使っての稲刈りを体験

最新技術で古墳の立体構造を解明へ

熊本大学が上御倉古墳を調査

8月26日から9月4日にかけて熊本大学文学部考古学研究室が古城地区にある上御倉古墳で測量調査を行いました。

同研究室では阿蘇地域を中心とした古墳時代を研究しており、県指定史跡で阿蘇地域最大規模の横穴式石室を持つ上御倉古墳の構造を明らかにするため平成27年から調査を実施しています。同大学文学部の杉井健准教授を中心に学部生・大学院生ら7名が地元の古城公民館に合宿しながら作業にあたり、最新技術を応用した古墳の三次元立体計測が行われました。

これまでの調査成果と合わせ、このことでコンピュータグラフィックスによる古墳の立体構造解明が期待されます。

わだい



熊本大学考古学研究室による測量の様子

乳幼児とのふれあいに笑顔

阿蘇中央高校で乳幼児とのふれあい体験授業

「高校生と乳幼児のふれあい体験授業」が9月4日、阿蘇中央高校で開かれ、普通科3年生の生徒30名と一の宮子育て支援センターに通う親子9組、一の宮町更生保護女性の会のメンバー5名が交流を行いました。

この取り組みは、子どもの成長や保育を体験する「子どもの発達と保育」の授業の中で、高校生が0歳〜2歳の乳幼児とふれあい、お母さんの話を聞くことで子育てへの理解を深めようと毎年行われているものです。

生徒たちは、お母さんに子どもとの接し方や子育ての悩みなどを質問したり、実際に子どもとのふれあいを通じて子育ての楽しさや大変さを肌で感じました。

わだい



赤ちゃんを抱っこして自然と笑顔になる生徒